

Junior Global Report 2024

令和6年度ジュニアグローバル研修事業(ニューカッスル市)実施報告書



令和6年(2024年)10月



目 次

◆事業概要	2
◆事業日程	3
◆活動日誌	5
◆派遣生徒報告	
川上中学校 明石咲希	13
宇部フロンティア 大学付属中学校 内海愛希	14
楠中学校 川俣貫太	16
慶進中学校 小西伶旺	17
宇部フロンティア 大学付属中学校 末本さら	19
慶進中学校 藤永凜菜	20
厚南中学校 松尾侑奈	22
神原中学校 吉本美涼	23
◆引率教諭報告	
宇部市教育委員会 大山裕子	25
藤山中学校教諭 中村祐輝	28
◆資 料	31

◆ 事業概要

1 目的

次代を担う市内の中学生を姉妹都市に派遣することにより、国際的に活躍できる人材を育成し、姉妹都市との交流によって友好親善と相互理解を深める。

2 主催

宇部市、宇部市教育委員会、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会

3 派遣期間

令和6年8月4日(日)～8月14日(水)(11日間)

4 派遣先

オーストラリア ニューサウスウェールズ州 ニューカッスル市

5 派遣生徒及び引率者氏名

中学校	学年	氏 名
川上中学校	2	あかし さき 明石 咲希
宇部フロンティア大学附属中学校	3	うちうみ あき 内海 愛希
楠中学校	3	かわまた かん た 川俣 貫太
慶進中学校	2	こにし れ お 小西 伶旺
宇部フロンティア大学附属中学校	3	すえもと 末本 さら
慶進中学校	2	ふじなが りん な 藤永 凜菜
厚南中学校	2	まつお ゆ な 松尾 侑奈
神原中学校	3	よしもと み ず 吉本 美涼

所 属	氏 名
宇部市教育委員会事務局	おおやま ゆう こ 大山 裕子
藤山中学校	なかむら ゆう き 中村 祐輝

◆ 事業日程

月日	曜日	行事		場所・会場
4月20日	土	14:00-16:00	一次選考（前半）	宇部市総合福祉会館
		18:00-20:00	一次選考（後半）	
5月11日	土	15:00-19:00	二次選考	宇部市役所
6月4日	火	18:00-20:00	ガイダンス	宇部市役所
6月15日	土	13:30-17:00	第1回研修	宇部市役所
7月6日	土	13:30-17:00	第2回研修	宇部市役所
7月20日	土	13:30-17:00	第3回研修	宇部市役所
8月2日	金	14:30-15:30	壮行会リハーサル	宇部市役所
		15:30-16:30	壮行会	
		16:45-17:30	第4回研修	
8月4日	日	17:45-19:25 山口宇部空港→羽田空港（NH700） 22:45-**** 羽田空港→シドニー空港（NH879）		—
8月5日	月	****-09:25 羽田空港→シドニー空港（NH879） -自治体国際化協会（CLAIR）シドニー事務所及び 日本政府観光局（JNTO）によるブリーフィング 15:15-17:49 セントラル駅→ニューカッスル・インターチェンジ駅 到着後、ホストファミリーと合流		シドニー ・ ニューカッスル市
8月6日	火	ピリオド1	歓迎セレモニー・オリエンテーション モーニングティー グループに分かれて NHS の学生ガイドによる学校案内	ニューカッスルハイスクール
		ピリオド2	フードテックのクラスに参加し、オーストラリア料理を作る （NHS のホスト学生がこのクラスに参加）	
		ピリオド3	先住民のゲーム	
		ピリオド4	ステージ4の日本語の授業活動に参加 宇部の学生によるプレゼンテーション	
		ピリオド5	Art Explores Passion プロジェクトに参加	

月日	曜日	行事		場所・会場
8月7日	水	ピリオド 1	NHS の学生によるディジュリドゥのコンサート鑑賞	ニューカッスルハイスクール
		ピリオド 2	オーストラリアのトリビアゲーム	
		ピリオド 3	スポーツの授業に参加	
		ピリオド 4	テクノロジーの授業に参加	
		ピリオド 5	日本とオーストラリアの違いを考える授業 (トピック：健康について)	
8月8日	木	ピリオド 1	アボリジニの文化を知る授業に参加	ニューカッスルハイスクール
		ピリオド 2	Year7 の日本語の授業に参加	
		ピリオド 3	オーストラリアの工芸品作り	
		ピリオド 4～5	シティウォーキング	
8月9日	金	ピリオド 1～2	ライトレールに乗ってニューカッスル市役所を訪問 (姉妹都市短期留学の高校生と一緒に)	ニューカッスル市内
		ピリオド 3～5	ニューカッスル市内を散策	
8月10日	土	ホストファミリーとの自由な一日		—
8月11日	日	ホストファミリーとの自由な一日		—
8月12日	月	ピリオド 1～4	ホストファミリーと一緒にミニバスでブラックバットリザーブを訪問	ニューカッスルハイスクール
		ピリオド 5	修了式	
8月13日	火	09:15-11:51 ニューカッスル・インターチェンジ駅→セントラル駅 昼食・簡単な市内観光後移動 18:50 シドニー空港到着 20:55-**** シドニー空港→羽田空港 (NH880)		シドニー ・ ニューカッスル市
8月14日	水	****-05:45 シドニー空港→羽田空港 (NH880) 10:15-11:50 羽田空港→山口宇部空港 (NH693)		—
8月16日	金	13:30-17:00	帰国後研修	宇部市役所
8月23日	金	13:00-13:50	帰国報告会リハーサル	宇部市役所
		14:00-15:30	帰国報告会 (高校生対象の姉妹都市短期留学帰国報告会と同時開催)	

◆ 活動日誌

8月4日(日) 担当:明石 咲希

みんな空港への集合がとてもはやくて驚きました。家族とはなれて羽田空港まで飛ぶのもはじめてなので、この時点で緊張しました。羽田空港にはタッチパネルで注文する自動販売機や、風神雷神図屏風の複製品がありました。

シドニー行きの飛行機にのりかえる前に、白い恋人ソフトクリームを食べました。甘くてとてもおいしかったです。

機内食には天井とカレーが選べたので、ANA 特製カレーにしました。からくておいしかったです。

8月5日(月) 担当:内海 愛希

シドニー空港に着いた後、外国で働く日本人の方(CLAIR)の話を聞きました。自分の夢と近い環境で仕事をしている人の話を聞くのはとても貴重な時間となりました。

その後、セント・メアリー大聖堂など、シドニー内の観光を少ししました。日本とは全く違う町並みで、私は信号機が違う所が面白く感じました。

その後は電車に乗ってニューカッスルに向かいました。とても長かったです。そして初めて、ホストファミリーと会いました。駅のホームでジョディ先生が「ようこそ」という紙を持ってくれていました。ホストファミリーの「ニコル」(母)と「イーヴィー」(双子の子)がむかえに来てくれていました。そして、家に行くと「タレント」(父)と「ザック」(双子の子)があたたかくむかえ入れてくれました。初めての環境で沢山の不安があったけど、ホストファミリーがやさしく振るまってくれて、緊張もすぐなくなったし、とても良い1日になりました。

8月6日(火)担当:川俣 貫太

ホストファミリーの子といっしょに学校へ行きました。

1時間目からケーキを食べさせてもらいました。おいしかったけれど、朝食後すぐだったので、きつかったです。

その後はラグビーをしたり、オーストラリアのクッキーを作ったり、絵を描いたりしました。

学校で一番おどろいたのは、昼ごはんがとてもおいしいことです。2時間目と3時間目の間と4時間目、5時間目の間の2回あります。1回目は11時(日本時間10時)に食べたので、あんまり入りませんでした。

家に帰った後は、ビーチに行きました。冬なのに、水に入ってる人がかなりいました。

ビーチから帰った後は、卓球をし、千と千尋の神隠しをいっしょに見ました。

8月7日(水) 担当:小西 伶旺

今日の夜は、日本から持ってきた『おすしやさん』を作ってホストファミリーの方々にふるまいました。作っている段階から水と粉を混ぜるだけで食べれることに非常に驚いていて、「It is Japanese magic.」と言ってくれてうれしかったです。味も美味しくて、気付いたころには完食していました。

その後、ホストファザーから「おいしいおかしをありがとうございます。」と日本語で言ってくれたのでとてもうれしかったです。



8月8日(木) 担当:末本 さら

毎朝グラノーラに牛乳なのであきそうだが、8種類もあるので案ずることはまったくなかった。甘さもくどくなくていい。ジェイソンから手作りのオレンジジュースも分けてもらった。こっちは一食の量はさほど多くなく、その分、デザートや間食もしっかりあるといった感じだ。昨日はしっかりお菓子をわたせたが、彼女たちの名前も漢字で書いてたので少し眠たさはあったが、1限目がとても興味深い内容だったので、そんなのはいつのまにか吹っ飛んでいた。

アボリジニに関する歴史や資料を素敵な小屋で見せてもらった。カンガルーの皮やアボリジニのブーメランなど。コアラのぬいぐるみはずっしりしていた。

その後、中庭まででて体育の先生と生徒たちとエミューやカンガルーのおどりを一緒におどった。動きの特徴をしっかりとらえていて、上手く表現している。

上級日本語クラスに参加した。先生や学生たちは別校舎から来たらしいが、みんな日本語の発音がきれいで、美男美女で驚いた。日本語で質問されて英語で返すというあんまり慣れない事をしたが、日本文化に関心を持っているのは何だかうれしかった。

ハイスクールの生徒が道徳を受けている間に、私たちはラミントンを食べた。その後はオーストラリアの伝統的な花のかざりを画用紙で作った。街中でよく見る花というよりは森に植生しているらしく、見た目は尖っているような形だ。ハイスクールの学生と協力して、あとちょっとという所までいったが、時間切れ。その後急いで準備をし、ニューカッスルビーチまで散歩に行った。となりの先生らしき人と話がはずんで気が付いたら目的地のビーチに着いていた。息をのむ程美しい海が広がっていて感動した。日の光が波に反射していてまばゆかった。足をつけてみると思いの外冷たく少しびっくりしたが、ボール遊びなんかをしたりしてそこから離れるのが惜しいくらい全力で楽しんだ。カールンというマディの友達も同行していて、彼がアナウンスを要約してくれたり、何度も助けてもらった。どうやら彼は貸した日焼け止めが気に入ってくれていたようなのでプレゼントした。オーストラリアの日射しは日本と比べ物にならない位強いというのに現地の人がつけているところをあまり見ない。こっちは人は太陽とビーチが大好きらしい。

帰ったら、フランキーの散歩に行ったらフリスビーを使って遊んだが、夢中になりすぎてサマーから怒られていた。夕食はレストランとピザとマグロのさしみを食べた。日本が恋しいかと聞かれたが、「Not so much」と答えた。

毎日が新しい発見の連続で、楽しくないわけない。非日常がもたらす影響というのは大きい。日本に帰るなどまだ想像できない。ギターとクリアな歌声を聞きながら思った。

8月9日(金) 担当:藤永 凜菜

今日はバスで学校に行きました。そのバスはスクール生徒専用のバスでお金がかかりませんでした。満員でした。日本のバスと同じような感じてした。女性の運転手さんでした。

<ピリオド1> 昨日のピリオド2で作ったオーストラリアの花を完成させました。オーストラリアは食べ物だけでなく、貼るのに使ったのりも大きかったです。

<ピリオド2> 待ち時間に「スナップ」というゲームをしました。これは、「ぶたのしっぽ」のようなゲームです。ぶたのしっぽは最後に自分の手持ちカードが一番少ないと勝ちになりますが、スナップは手持ちカードが一番多いと勝ちになります。私は瞬発力と運が無くて、1回も勝てませんでした。ですが、宇部の生徒たちとワイワイ楽しむことができました。

<ピリオド3-5> まず市役所を訪問しに行きました。プレゼンテーションはとても緊張しました。その後、Morning Tea をごちそうになりました。私は、固いクレープのようなものにカスタードクリームが入ったお菓子をいただきました。6階という、高い所からの景色も楽しむことができました。ニューカッスルの記念品などもいただきました。

次に、海の見える港に行き、有名な灯台や船を見ることができました。そこで昼食をいただきました。また歩いていくと、彫刻を見ました。

宇部市が寄贈した石の灯籠も見ました。歴史を感じる家並や競技場も見ることができ、楽しかったです。

夕食はホストファミリーが BBQ をしてくれました。松尾さんと Lily 家族も一緒にしました。私はホストブラザーの双子と一緒に火付けのための小枝を拾いました。ソーセージ、やきとり、サラダ、グラタン、マシュマロと盛り沢山でした。ソーセージは BBQ ソースをつけると、さらにおいしくなりました。

8月10日(土) 担当:松尾 侑奈

今日、午前中にリリーとリリーの姉妹のネットボールの試合を見に行きました。ハーパー、ライ、リリーの3つの試合を見ました。3人が所属しているチームはとても強くたくさん点を決めていました。特にすごかったのは、リリーのチームでリリーがセンターをつとめて、たくさんパスをし、他の子がシュートをしていました。結果は、驚くことに70対6で圧勝でした。バスケットが、ドリブルをしてはいけないので面白いなと思いました。

昼食にはミートパイを食べました。パイの中にカレーが入っているような感じでとてもおいしかったです。

昼食の後には、ビーチに行きました。間近で大きな船を見たり、アクロバット飛行を見たりしてとても楽しかったです。途中のビーチにはペリカンがおり、かわいかったです。

夜にはリリーの家族の親せきとBBQをしました。私はリリーと一緒にパブロアを作りました。リリーとメールでやりとりをしていたとき、写真で見たらパブロアはケーキなのかと思ってたけど、実際は白いクッキーの上に生クリームとフルーツをのせたものでした。とてもおいしかったです。

カードゲームを家族としました。難しかったけど、何回か勝てたのでうれしかったです。3回戦して、カードの得点の合計を競うゲームで、最後に計算をしないといけなくて計算したら「You are good at math!」と言われて少しうれしかったです。



8月11日(日) 担当:吉本 美涼

今日の朝に、ノビーズビーチというビーチに行きました。少し雨が降っていましたが、到着したときにはやんでいました。朝ごはんを食べていなかったなので、そこにある売店でバナナトーストとレモネードを買ってもらいました。バナナトーストは、外がカリカリで食べているとバナナの風味がしっかりとおいしかったです。レモネードは、飲む前に酸っぱいかと思いましたが全然酸っぱくなく、とてもフレッシュでレモンの爽やかさをとても感じました。

また、ビーチの近くでマーケットをやっていました。ホストファミリーさんによると、このマーケットは月に1回ほどしかないそうです。それは、他のニューカッスル市内のビーチで毎週日曜日にマーケットを開くためです。つまり、どこかのビーチで毎週マーケットが開かれているということだそうです。

マーケットでは、古着やハンドメイドが中心に売られていました。古着では、コートから流行の服まで様々で、ハンドメイドではヘアかざりやアクセサリが売られていました。そのマーケットには、マックスさんが働いているお店があります。名前は「G.Free Donuts」です。いろんな種類のドーナツがあり、とてもおいしかったです。

午後には、別のビーチに行き、ニューカッスルハイスクールでできたお友達のアニカさんとジェーンさんとビーチでお散歩しました。灯台に行ったり、海の近くまで行けるスポットを歩いたり、岩を上ったりと様々なことをしました。また、2人といろんなこととお話できて楽しい時間を過ごせました。アニカさんと連絡先の交換もできました。

夜には、マックスさんのお友達のアニアさんが家に来ました。年はYear9で私と同じですが、ニューカッスルハイスクールではありませんでした。一緒に映画を見たり、オーストラリアのボードゲームをしました。恥ずかしくて、なかなか話しかけられなかったけど、とても優しい人でした。

8月12日(月) 担当:明石 咲希

うっかり朝を寝過ごしてしまったので出発が遅くなりましたが、学校にはチャイム前に着くことができました。派遣生徒のみんなや先生たちにクロエと合流したら、すこししてバスがきたので、バスに乗ってブラックバットリザーブに行きました。ブラックバットリザーブはオーストラリアの動物を見ることができる自然公園で、様々な野生生物を観察したり、一部の動物とふれあったりできます。私がハイスクールと市役所でスピーチした内容には「ブラックバットリザーブに植えた宇部市とニューカッスル市の記念植樹」があったのですが、残念ながら見つけれませんでした。また訪れる機会があったら探したいです。

ブラックバットリザーブに入って、最初にカンガルーやウォンバットを見ました。ウォンバットは小さいカンガルーに似た見た目で、どちらもかわいいです。近くにはエミューもいました。このあいだハイスクールでした「snap」というゲームに出てきた生き物の大半が居て、他にも野生の鳥、飼育されている鳥と鳥類も多かったです。ところどころは虫類も見られ、活発に動く様子はなかったですが、普段見ない生き物を生でみられ、貴重な体験ができました。

夜にはスパゲッティナポリタンを食べました。Lidiyaさん特製ソースがとてもおいしくて、おかわりをしました。アイスクリームをすすめられましたが、スパゲッティでお腹がふくれていたので、少ししてからもらいました。ここではアイスやチョコが人気なおやつに感じます。ご飯後は昨日買った Thank you カードにホストファミリーへのお礼の手紙を書き、シャワーをあびました。

8月13日(火) 担当:内海 愛希

朝、とうとうホストファミリーとお別れをしました。私は手紙と、みんなでおそろいのキーホルダーを渡しました。正直とても悲しかったけど笑顔で「Thank you」と言えてよかったです。

駅のホームで、ホストマザーが「行ってらっしゃい」と私が教えた言葉を使ってくれたとき、とても嬉しかったです。そして、電車に乗ってシドニーに行きました。

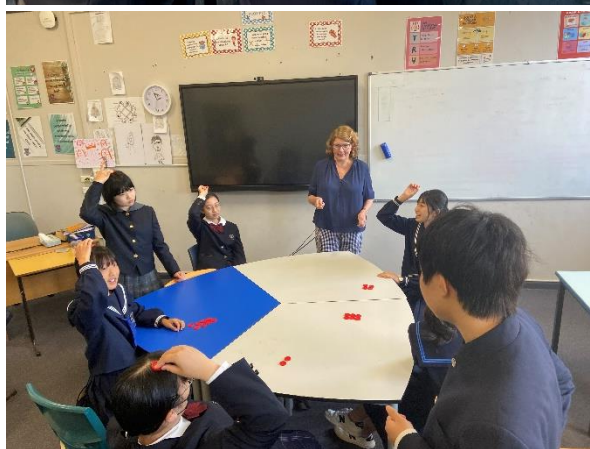
飛行機までの間、オペラハウスやハーバーブリッジなどシドニー観光をしました。教科書やテレビで見ていたようなものが直接見られてとても良かったです。

そして、シドニー空港に行きました。空港でお土産を買ったりしました。

8月14日(水) 担当:川俣 貫太

羽田に到着しました。空港内で朝食を食べ、しばらくして飛行機に乗り、宇部へ向かいました。宇部に着くと、親が出迎えてくれていました。あっという間の10日間でした。海外での経験は必ずよい経験になると思うので、これからに活かしたいです。

ホストファミリーとは、今後も連絡を取り、いつかはまた会いたいと思っています。



◆ 派遣生徒報告書

川上中学校 2年 明石 咲希

出国日、吹奏楽部のコンクールが重なったので、忙しい日になりました。コンクール会場から直接山口宇部空港に行き、はじめての海外にワクワクドキドキしながらのフライトでした。機内に持ち込んだネックピローは思ったより邪魔だったので使いませんでした。

オーストラリアに着いて1日目、シドニーをまわってまず街の様子の違いに驚きました。全体的に平らな地形で、建物の間隔が広いので日差しがより強く感じました。冬でも少し暑かったです。信号機の形も若干異なり、建材もサンドストーンなどが用いられています。昼食は研修チームとレストランで食べました。レストランのドリンクバーが何の飲み物か英語が分かりませんでした、おいしかったです。

シドニー観光の後には電車に3時間程度乗って、ニューカッスルへ到着しました。その日はもう夜遅くなっていましたが、ハイスクールの先生やホストファミリーが出迎えてくださっていて、胸が熱くなりました。そこからはホストファザーに車で家まで乗せてもらい、完璧な英語ではなくともお話しして過ごしました。

ステイ先の生活は自分にとって新鮮かつ貴重な体験でした。事前に向こうの生活は調べていましたが、実際にステイすると日本との文化の違いがあり、難しくも面白いステイ期間でした。

ニューカッスルハイスクールへの通学は、ニューカッスルに来た次の日から始まりました。ホストチューデントのクロエと歩いて登校していると知らない標識を見かけたので質問すると、黄色い背景に足が描かれたものの名前は「walking」とであると教えてもらいました。「この道路を横切って歩いても良い」という意味だそうです。この標識は日本には無いと



伝えるとびっくりしていました。学校では毎日色々な授業を受けました。おおよそ英語だったので全ては理解できませんでした。しかし、言っていることを分かったときのうれしさもひとしおでした。体を動かす町歩きや体育も、クラスメイトと楽しみました。

休日、ホストファミリーとニューカッスル市を歩きました。ホストファザーはすごく物知り
で、市の歴史や建物・出来事をよく教えてくださり、興味深いお話を聞けました。



最初は英語のリスニングが全然出来ずに他言語での会話の難しさを痛感しました。それでも、身ぶり手ぶり、翻訳機を使って話せたとき、色んな人と話せる英語の楽しさを改めて体験しました。現地の友達とメールアドレスを交換したので、少しずつでも、ジェスチャーに頼らない英文だけでの会話を上達させていきたいです。

宇部フロンティア大学附属中学校 3年 内海 愛希

8月5日にシドニーに着いたとき、日本とは全く違う町並みを見て、これからの数日間のワクワクと、英語がうまく使えるのだろうかという不安が、入り混じっていました。シドニーの観光をした後、電車に乗ってニューカッスルに向かう間、とうとうホストファミリーと会うんだという期待で胸がおどりました。ニューカッスルに着くと、「ようこそ」という文字と共にホストファミリーが待っていました。「フライトはどうだった?」「オーストラリアはどう?」とホストマザーが優しく声をかけてくれてとても嬉しく感じました。それから約1週間、沢山の経験をし、沢山のものに触れました。その中でも思い出に残っていることが2つあります。

一つ目は、ハイスクール通学です。授業や校舎の雰囲気が日本とは全く違うニューカッスルの高校では、驚きの連発でした。とくに授業時間が1コマ1時間あり、休憩が40分、20分とあり、長かったことです。授業では、学年が違う人同士が受けているものもあり、大学のようなシステムでした。また、生徒全員がとてもフレンドリーでした。私たちを見かけると、日本語で「こんにちは」と沢山



の人が話しかけてくれました。一緒に休み時間を過ごしたり、お昼を食べたりして友達を作ることができました。

二つ目は、ホストファミリーと過ごした日々です。ハイスクール通学 3 日目、私は熱を出して学校を休みました。ホストマザーが一日付き添ってくれました。学校に行けなかったのは残念だったけど、ホストファミリーと沢山話すことができて、英語に対する不安はなくなりました。また、ホストファミリーと料理をしたことがとても楽しかったです。オーストラリアで有名なベジマイトを使ったパイを作りました。ぜひ、家族や友達に振る舞ってあげたいです。

今回のこの研修を通じて、日本との文化や習慣の違いを学んだり、沢山の思い出を作ったりすることができました。スーパーや町並みでは、他国の食べ物やお店を見かけ、「多文化」を感じました。不安に思っていた英語は、簡単な単語やジェスチャーなどを使うことでスムーズに会話することができました。それでも、上手く自分が伝えたいことが英語にできない場面もあり、悔しさもありました。自分の英語レベルをもっと上達させ、もう一度、ニューカッスルに行ったり、英語を活用した仕事に就きたいです。



楠中学校 3年 川俣 貫太

研修生徒募集の紙を見た時、面白そうと思った。オーストラリアでのハイスクール通学、ホームステイと、一生に一度できるかできないかという内容に興味を惹かれ、応募し、一次・二次試験を受け、派遣生徒に選ばれた。

8月4日、宇部空港を出発し、羽田空港を経由してシドニー空港へ向かった。シドニー空港についたときは、楽しみと不安の感情が入り混じっていた。しかし、ニューカッスルについた時は、ホストファミリーの方々が歓迎してくれ、不安はかき消された。

そして、ホームステイが始まった。休日以外は日本と同じように学校があったので、ホストファミリーの子と一緒に登校した。現地の学校の学生はみんな親切で、自分が話していることを理解しようとしてくれた。授業では、オーストラリアの伝統的な楽器であるディジュリドゥの演奏を聴いたり、外で体を動かしたりした。学校の中に制服ショップがあったので、せっかくの機会だと思い 1 着購入した。制服といっても、日本のようなものではなく、ラフなものだった。学校生活で一番困ったのは、昼食だ。オーストラリアの 11 時、日本時間 10 時に昼食だったので、体が慣れておらず、なかなか食べることができな



かった。一番の思い出はビーチでラグビーをしたこと。タグラグビーのようなものかと思ったら、まさかのタックルありのラグビーで、怖かったけれど、とても楽しかった。

放課後は、ゲームをしたり、友達と外へ遊びに行ったり、習い事に行ったりと、日本とあまり変わりなかった。ビーチが近かったので、放課後ビーチによく行った。ゴミひとつなく、とても綺麗なビーチだった。そこではイルカを見ることができた。冬でも、日本と比べて気温は高めなので、泳いでる人も多くいた。

休日にはお土産を買いに店に行ったり、カードゲームやボードゲームをした。休日一番



の思い出、いや、研修中一番の思い出は、ホストファミリーとサイクリングをしたことだ。自転車で博物館へ行き、昼食を食べて家に帰った。長距離のサイクリングだったが、とても楽しく、疲れなんて感じなかった。

約10日間の研修であったが、とても短く感じた。別れる時には、まだ帰りたくないと思っていた。今回の研修では、とても貴重な経験ができた。この経験を糧に、どんどん勉強し、英語を上達させていきたい。

最後に、この研修に関わったすべての方々、本当にありがとうございました。

慶進中学校 2年 小西 伶旺

僕の海外派遣での目標は「日本とオーストラリアの違いを見つける」こと、「積極的にコミュニケーションをはかる」ことです。

オーストラリアは多文化国家であるため、多種多様な人々と交流することができました。学校は日本のように担任の先生やクラスがなく、自分が受けたい教科を選択する形式でした。そのため、休み時間は教室を移動することにバタバタしました。外国語は日本語とフランス語の選択授業でした。スポーツの日には魚釣りやウォーキング、ラグビーなどが行われているそうです。また、2時限目と4時限目の後には長い休憩時間があり、ホストマザーが作ってくれたお弁当を食べました。放課後は部活動が無く、帰る時間が早いため、ホストシスターの演劇やホストスチューデントのサッカーの試合を見に行くなど有意義な時間を過ごしました。



オーストラリア英語は、アメリカ英語とは異なり戸惑いました。例えば「enter」が「entry」だったり、「eight」の発音が「アイト」となっていました。

ホームステイ先では日本から持ってきたお土産やパズル、卓球、ゲームなどをして遊びました。お土産の『ねるねるねるね』は、粉と水を混ぜるだけで美味しいお菓子が作れるということで「It is Japanese magic!」と喜ばれました。



休日は動物園やラグビーの試合観戦、魚釣りに行きました。動物園では初めてカンガルーやコアラ、タスマニアデビルを見ることができました。ラグビーの試合はスタジアムで観戦しました。地元チームがトライしたときの大歓声に鳥肌が立ちました。魚釣りはホストファミリーに教えてもらったのですが、一匹も釣れなくて残念でした。

この研修では、僕の知らない多くのことを「発見」することができました。まだまだ知らないことがあると思うので、自分の視野を広げて「発見」していきたいです。

最後に、今回の海外派遣に携わってくださった皆様に心より感謝を申し上げます。一緒に過ごしたホストファミリーはかけがえのない存在です。ありがとう!またニューカッスルに行くよ!



宇部フロンティア大学附属中学校 3年 末本 さら

私は今回の研修を通じてオーストラリアの文化と週間、学習スタイルを学ぶと共に、人から多くの助けを受けているということを再認識した。

この10日間は私にとって初めての海外渡航であり、一生に残る思い出だ。

オーストラリアでのハイスクール生活は日本の小中・高等学校に比べて自主性を重んじているように感じ、生徒の意見を授業に反映させたり、授業を選択できたりするなど、日本とは異なる教育システムには本当に驚いた。

日本の教育は学力の向上が主な目的としており、それも大切なことなのだが、オーストラリアのように生徒の学びに対する興味や関心を重視することは日本のグローバル化に必要なのではないかとも思う。ハイスクールではオーストラリアの歴史を習い、先住民族であるアボリジニの文化に触れ、音楽や踊りを鑑賞した。彼らと交流することができ、私は光栄である。



また、現地の家族の生活を体験することができた。ホストファミリーは色々和不慣れだった私を受け入れて、家族みんなが明るく、親切で沢山のことを教わった。ニューカッスル滞在中、日常生活を支援してくれるだけでなく、ビーチで散歩したり、ブッシュウォークにつれていってくれたり、私に美しい景色を見せてくれた。そして分からないことを尋ねると気軽に教えてもらった。ハイスクール生活を充実して過ごせたのは彼らが私のために世話を焼いてくれたおかげなので、深く感謝している。非日常を体験することで自分の世界が広がっただけでなく、挑戦することに恐れがなくなり、成長できたのだと感じる。

この10日間、私は宇部市の中学生代表の研修生として、とても貴重な経験、学びを得ることができたが、ハイスクールの先生や学生達、ホストファミリー、そして引率の先生方、宇部市役所の方々、交流協会の方々など多くの支援、励ましがあったからこそ実現できたのだ。人の助けにより人生が成り立っていることを改めて感じた。

この研修では、多くを学び、貴重な体験をし、グローバル化について深く考えるきっかけになった。今後の人生においてこのすばらしい経験を十分に生かせるかどうかはこれからの私の努力と根気にかかっている。感謝の気持ちと大きな世界観を持って日本のグローバル化に役立てる、そんな人間になりたいと思った。

慶進中学校 2年 藤永 凜菜

私は初めて海外へ行きましたが、研修の時から一緒に過ごした派遣生のみんなと引率の先生方、支えてくださる沢山の方々がいてくださったおかげでとても心強かったです。

ニューカッスルに到着して、ホストファミリーに会った時、相手の言っていることが聞き取れず、自分も伝えたいことを伝えられず緊張してしまい、悔しかったです。少しずつ慣れてきて、お土産を渡した時には英語で何とか説明ができました。ホストファミリーが日本のものに興味を持ってくれたので嬉しかったです。

ニューカッスルハイスクールでは、フレンドリーに沢山の方から「こんにちは」と声をかけられました。家庭科、保体、日本語クラス、美術、音楽、技術、アボリジニ文化など、興味深くオーストラリア文化を感じる楽しい授業ばかりでした。また、一日に二度ある Recess では、リラックスして、様々な人と話したり、一緒にランチを食べたりしました。



ニューカッスルの街歩きや市役所訪問、自然動物公園でオーストラリアの動物たちに会えたことも貴重な経験になりました。ホストファミリーとは、ビーチに何度も行き、夜釣り、バーベキュー、ショッピング、休日には、ランチピクニック、小高い山でのパラグライダー見物、ネットボール観戦など、一緒に充実した楽しい時間を過ごすことができました。また、

沢山のオーストラリアのお土産もいただきました。ホストファミリーには、ぜひ日本に来てほしいです。



今回、北半球と南半球の違いを感じることができました。真夏の日本から、冬のオーストラリアへ。太陽や月は東から昇り、北の空で高くなり、西へ沈みました。今まで、三日月は右側が光っていることが当たり前だったのに、ニューカッスルで見た三日月は左側が光っていました。長年の夢だった南十字星をホストファミリーに教わって見た時には感動しました。

ホストシスターのKiahと一緒にビーチに寝転がり、満点の星空を眺めた時間は忘れられません。世界の不思議さを感じ、自分の可能性が無限にあるような勇気をもらいました。

中学生で一生に一度あるかないかのような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。出会った方々との絆を大切に、たくさん学び、視野を広げ、少しずつ恩返しができるように頑張ります。



今回の研修事業を通して、たくさんの貴重な体験をさせていただき、サポートしていただいた方に感謝の気持ちでいっぱいです。

初めてホストファミリーと会った時、緊張していましたが、快く迎え入れてくださりすぐに家族の中に溶け込むことができました。その日は、日本から持って行ったお土産を渡しました。喜んでくれてうれしかったです。

私が一番楽しみにしていた事は、ハイスクール通学です。色々日本との違いに気付かされました。学校は5時間授業で2回のリセスという休憩時間があります。みなでお菓子を食べたり、お弁当を食べたりしました。私はいつも家族が作ってくれたお弁当を食べますが、オーストラリアは朝、子供たちでフルーツなどをお弁当箱に詰めて持って行っていたので感心しました。ニューカッスルハイスクールの生徒たちはみんな、フレンドリーに話しかけてくださり、嬉しかったです。

放課後や休日にはホストファミリーが、ビーチなど、色々な場所に連れて行ってくれました。きれいな海に大きな船が行き交い、夕日も綺麗で何度行っても違う景色が楽しめ、毎日充実した時間が過ごせました。



最初は聞き取ることができなかった英語ですが、時間が経つにつれて、理解することができるようになりました。しかし、自分の考えを伝えたいときにうまく言えなかったのがとても悔しかったです。ホストファミリーは私の下手な英語にも耳を傾けてくれ、英文が違っていても理解してくれました。私にたくさんのオーストラリアの文化を教えてくれ、困っているときにいつも助けてくれたホストファミリーには感謝がありません。

自分が伝えたい気持ちをうまく伝えられず悔しい思いもたくさんしましたが、積極的に会

話をすることが出来て良かったです。もっと英語を上達しなければと感じました。

このようなすばらしい機会を設けてくださり、本当にありがとうございました。

神原中学校 3年 吉本 美涼

今回の研修でとても貴重な体験をすることができました。初めての海外、初めてのホームステイと、初めてのが多く不安も大きかったです。でも、ホストファミリーの皆さんが温かく迎え入れてくださり、不安はあっという間に消えました。言語の壁にぶつかり、言いたいことが伝わらないこともありました。そ

んな私に、ホストファミリーさんや多くの人が熱心に話を聞いてくれ、簡単な英語でゆっくりと話してくれました。とてもいい人たちばかりで、ずっとオーストラリアに留まっておきたいと思ったほどです。ホストスチューデントのマックスは、サッカー、バスケットボール、サーフィンとスポーツ万能でした。滞在中、サッカーとバスケットボールの試合



を見に行きました。とても足が速く、パスが正確で感激しました。とても白熱した試合で、目が離せませんでした。ホストマザーのナオミさんは、寒いといけないからと夜にゆたんぽを用意してくださったりと、とても優しい方でした。たくさんの伝統的な料理を作ってください、どの料理も絶品でほっぺたが落ちそうでした。日本料理「巻寿司」も作ってください、中にサーモンやイクラなどが入っていて本格的でした。日本の味に懐かしさを感じつつ、オーストラリアで日本食が親しまれていることに嬉しさを感じました。

滞在中は、学校に通学しました。学校は 5 時限あり、50 分授業です。昼食休憩やリセスという 20 分程の休憩があるなど、日本よりも休憩が多かったです。休憩の時には、たくさんの方が「一緒に食べよう」と誘ってくれ、一緒に家から持ってきたご飯を食べ、たくさんお話しました。学校ですれ違った時には、Hi や日本語でこんにちはと挨拶をしてくれるなど、優しい人たちばかりでした。学校が終わると、部活動はなくみんな一斉に帰ります。マックスと今日どんなことをしたかを話しながら帰りました。放課後や週末は、ホストファミリーの皆さんとたくさんのところに行きました。例えば、ビーチです。大きなビーチが

至るところにあり、砂浜や海がとてもきれいでした。ノビーズビーチは有名なビーチのひとつで、学校でできたお友達と行った思い出の場所でもあります。また、会いたいです。



今まで、外国の人と話すとき緊張で固まることがよくありました。研修を通して現地の方とたくさんお話をし、完璧な英語でなくても伝えることができると分かり、英語だけの会話に不安がなくなりました。でも、同時に課題も見つかりました。それは、会話力とリスニング力です。会話の中で何回も聞き返したり、同じ表現を繰り返し使ったりで、話を長く続けられませんでした。改善するために、ラジオの英語講座を受講したり、英語での会話音声を聴くなどし、普段から英語を話す習慣をつけていきたいです。そして、英会話をもっと楽しめるようになりたいです。

最後に、観光交流課の皆様、引率の先生方、この事業に関わった全ての皆様に感謝します。



ジュニアグローバル研修を終えて

コロナ禍で中断されていたジュニアグローバル研修が5年ぶりに再開される年に、また引率をできることを大変うれしく思います。久しぶりの研修ということで、生徒たちが宇部市とニューカッスル市の懸け橋となれるよう、精一杯のアシストをし、とにかく無事に連れて帰ることを目標として、研修に臨みました。

8月4日、期待に胸躍らせる8人の派遣生達とともに、宇部空港を旅立ちました。シドニー行きの飛行機ではどの子もよく眠れなかったようですが、みな元気にオーストラリアの地に降り立ちました。入国審査等がすべてIT化されており、英語で何かを聞かれることがなかったのが少し残念でした。

シドニーでは、最初にCLAIRを訪問し、海外で働くことについてお話を聞きました。みな熱心にメモを取ったり、質問をするなどし、大変有意義な時間を過ごすことができました。その後、レストランでフィッシュアンドチップスのランチをいただきました。以前は、フードコートで英語を使って注文して食べるという形だったのですが、今回は英語を使うことがなかったので、次はぜひ英語を使う形にしてほしいなと感じました。



その後、セントラル駅へ移動し、ニューカッスル行きの電車に乗車しました。期待と不安でワクワクしながら2時間半を過ごし、ニューカッスルインターチェンジ駅に到着しました。電車を降りると、改札の向こうにたくさんのホストファミリーが「ようこそ」の看板を持って笑顔で歓迎してくれている姿を見ることができました。子どもたちはその温かい歓迎で、緊張もほぐれ笑顔で挨拶をすることができました。



次の日から、ニューカッスルハイスクールに通う生活が始まりました。それぞれが自転車や徒歩、バスでステイ先から学校にやってきました。初日は、歓迎式で校長先生からお言葉をいただいたり、校内での生活について説明を受けました。家庭科の授業でアンザッククッキーを作ったり、体育の授業でラグビーをした後、ジョディ先生の日本語のクラスでプレゼンテーションをさせていただきました。アイコンタクトやジェスチャーを巧みに織り交ぜ、今まで練習した中で一番良い発表となりました。ニューカッスルハイスクールの生徒たちは大変明るく、親切で出会うたびに「Hello!」「こんにちは!」と声をかけてくれました。最初は、恥ずかしそうだった派遣生達もどんどん自分から声をかけられるほどに成長していき、頼もしく感じました。



ニューカッスルハイスクールでは、オーストラリアの原住民「アボリジニ」の文化を学ぶカリキュラムがあり、私たちも「ディジリドゥー」の演奏やダンス等を学びました。とても貴重な体験をさせていただいたと思います。木曜日の午後は、スポーツデーで毎週何らかのスポーツを行うとのことでした。私たちは、美しい街並みを見ながら、ビーチまで約5kmを楽しく歩きました。学校での授業や友達、ホストファミリーとの会話はすべて英語で行われるため、スピードが速く最初は聞き取るのも難しく、また自分の思っていることを英語で伝えることも上手くできなかったようです。たくさん悔しい思いをしたようでしたが、日が経つにつれ、積極的にコミュニケーションを取れるようになり、自信もついてきているように感じました。またどのホストファミリーも大変温かく、愛情を持って接してくださり、どの子も毎日笑顔で登校することができていました。ホストファミリーやハイスクールの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

ニューカッスル市長訪問では、急遽プレゼンを行うこととなりましたが、みな堂々と発表することができ、大きな拍手をいただきました。本当にすべての場所で歓迎していただき、



素晴らしい時間を過ごすことができました。市長訪問の後、ニューカッスル市内を徒歩で散策しました。とても天気が良く冬とは思えないほど暖かかったです。ビーチ沿いのベンチに座り、みんなでランチを食べ、お土産等も買って、学校まで歩いて帰りました。

8月13日はいよいよホストファミリーとのお別れの日となりました。みなさん、駅まで見送りに来てくれ、涙で別れを惜しむ子どもたちの姿もありました。たくさんの思い出と貴重な経験を得て、シドニーに向けて旅立ちました。

シドニーでは、オペラハウスやミセスマッコーリーズチェア、ハーバーブリッジ等を訪れました。ガイドの方が初日と最終日にオー

ストラリアの歴史や、生活について丁寧に説明してくれ、大変勉強になりました。

今回、私はニューカッスルハイスクールのジョディ先生のお宅にホームステイさせていただきました。彼女の家は、Lake Macquarie (マコーリー湖) のほとりにあり、毎日湖にペリカンが飛んできていました。宇部市民にとっては、ペリカンはとても親しみのある鳥で、野生のペリカンがさっそうと羽を広げ、飛んでいる姿を見るとなんだか懐かしい気分になりました。そして、ペリカンを通じてまた宇部市とニューカッスル市の繋がりを感ずることができました。

今回の貴重な研修を通じて、派遣生達は積極的に行動したりコミュニケーションを取ることの大切さ、他国の文化を学ぶことの意義を感じることができたと思います。今後もさらに成長し、宇部市とニューカッスル市の交流に力を発揮してくれることを期待しています。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった宇部市、観光交流課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、そして研修派遣に関わっていただきましたすべての方々に感謝を申し上げます。今後もジュニアグローバル研修が末永く続いていくことを祈念しております。ありがとうございました。

ニューカッスル研修を終えて

私にとって、オーストラリアを訪れるのは今回が初めてで、引率者としてどんな体験が待っているのかとてもワクワクしていました。また、8 人の派遣生がオーストラリアでの 10 日間の研修を通じてどのように成長するのか、少し不安もありましたが、楽しみにしていました。

シドニーに到着すると、その美しさに感動しました。車窓から見える景色は、近代的な建物と歴史を感じさせる風景が融合しており、子どもたちも写真を撮るのに夢中でした。初めての食事はフィッシュアンドチップスで、オーストラリアでの初めての食事を楽しみました。

宇部市の姉妹都市であるニューカッスルへは、約2時間半の電車の旅で、夕方に着きました。辺りはすでに暗くなっていましたが、ニューカッスルハイスクールのジョディーさんや、ホームステイ先のホストファミリーの皆さんが笑顔で迎えてくれ、旅の疲れが一気に癒されました。子どもたちも温かい歓迎を受け、不安を忘れていたことでしょう。



翌日からは、ホームステイ先から徒歩やホストの車、電車などで学校に通い、8 人一緒に日本語の授業や音楽、家庭科、コンピュータの授業を受けながら、現地の学生たちと交流しました。休み時間には、多くの学生たちが話しかけてくれ、派遣生たちは嬉しそうに対応していました。ハイスクールでの体験は8人全員が同じでしたが、心に残った場面はそれぞれ異なることでしょう。特に、男子が体験したアボリジニーの楽器「ディジリドゥー」の演奏やスピリチュアルなダンスが印象的でした。ニューカッスルハイスクールは、アボリジニーの文化をカリキュラムに取り入れている数少ない学校で、私たちは貴重な体験をさせていただきました。

派遣生たちも、ニューカッスルの市長やハイスクールの学生たちに宇部のことを英語でしっかりと伝えることができました。緊張もあったと思いますが、落ち着いて立派に発表していました。ハイスクールに通う間、ホストファミリーには家族のように愛情をかけていただき、派遣生たちは皆笑顔で過ごしました。あっという間に時が過ぎ、ハイスクール最後の日には、ホストブラザーやホストシスターたちとブラックバットの保護区を訪れました。ウォンバットやワラビーなどを間近で見ることができ、皆大喜びでした。残念ながら、コアラを見ることができませんでしたが、お昼からは区内の公園で走り回って遊び、本当に楽しそうでした。ハイスクールでの最後の時間で、お別れ会をしました。校長先生やホストファミリーが集まりハイスクールでの活動を振り返りました。短い期間でしたが濃い経験をした生徒はさみしそうな様子でした。



次の日の朝、いよいよホストファミリーとのお別れです。平日にも関わらず、駅まで見送りに来てくれたホストファミリーの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいでした。涙で別れを惜しむ子どもたちもありました。私たちが不安なく、笑顔で様々なことに挑戦できたのも、ホストファミリーの支えがあったからです。忘れられない思い出ができました。



オーストラリア最終日は再びシドニーで過ごしました。フードコートで食事をした後、オペラハウスやハーバーブリッジの風景を楽しみながら、日本人ガイドの方にシドニーを治めたマッコーリー総督の偉業や、イギリスのオーストラリア入植の歴史を教えてくださいました。シドニーは本当に美しい街で印象に残っています。

この研修の成果は、8人の派遣生全員が初めてのことに臆することなく挑戦し続け、笑顔で積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を身につけたことです。10 日間の間には楽しいことだけでなく、不安や

英語が通じない悔しさもあったと思いますが、全員が前向きに取り組んだことで、英語を話す自信がついたのではないかと思います。今回のオーストラリアでの研修が、彼らの未来を後押ししてくれることでしょう。

私自身も、初体験が多く貴重な経験をさせていただきました。私のホストファミリーのナディアさん、ルークさんには感謝してもしきれません。日本に来られたときは、最大の恩返しをしたいと思います。

最後に、日本とオーストラリアでお世話になった皆様に感謝申し上げ、帰国のご報告とさせていただきます。

◆ 資料

1 事前研修・壮行会

	内 容
第1回	アイスブレイク-新聞紙タワーを作ろう！ 研修の目標を設定しよう ワークショップ-宇部市を英語で紹介する①
第2回	ワークショップ-宇部市を英語で紹介する② -ALTの先生から英語でプレゼンテーションをするコツを学ぼう！
第3回	宇部市紹介プレゼンテーションの練習 ALTの先生と英会話
第4回	壮行会、出発前の最終確認

事前研修



壮行会



2 帰国後研修・帰国報告会

	内 容
帰国後研修	研修を振り返ろう 帰国報告会の準備 ワークショップ-日本とオーストラリアの違いから多文化共生を考える

帰国報告会



3 ニューカッスル市の概要



ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東海岸部中央に位置し、シドニーの北東約160kmにあるハンター地方の首都で、人口約17万人（2022年現在）、気候は温暖で、州内第2の産業都市です。

市の北西約100kmの背後に広がる豊かなハンター炭田は、オーストラリアで最初に開発された歴史を持っています。

かつては、市内でも採掘されていた石炭は、製鉄所や造船その他の関連工業を興し、臨海産業都市として発展してきました。

市の中心部には、大学を始め高い水準の教育、文化、体育施設があります。また、現在は美しい海岸線と豊かな自然を有する観光都市として、毎年多くの観光客が訪れています。

4 姉妹都市提携の背景

昭和54年（1979年）3月に定められた宇部市総合計画基本構想において、「国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開する」ことを掲げ、9カ国21都市を候補として、調査・検討を進めました。

一方、市内主要企業においては、昭和51年（1976年）以来石油にかわるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いていました。

このような情勢の中で、昭和55年（1980年）7月、22人の市民有志による豪州親善視察団が、オーストラリアの数都市を視察調査し、帰国後、姉妹都市としてニューカッスル市が最適である旨の報告が提出されました。

その後、種々検討のうえ、同年9月、市議会の賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市を決定し、11月21日にニューカッスル市において調印式を行いました。

5 主な交流経過

姉妹都市提携以来、教育・文化、青少年、スポーツ、経済等幅広い交流を行ってきました。この間、昭和60年（1985年）には、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会が設立され、市民レベルの交流が活発に展開されるようになりました。

青少年交流については、昭和61年度から高校生研修派遣、平成3年度から中学生研修派遣が実施され、交流の重要な分野の一つとなっています。

文化交流については、これまで提携10周年、15周年、20周年、25周年、30周年といった節目の年に文化訪問団を派遣し、交流を深めています。

令和6年(2024年) 10 月

宇部市観光スポーツ文化部 観光交流課

〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号
TEL 0836-34-8136 FAX 0836-22-6083
E-mail kokusai@city.ube.yamaguchi.jp
